

2017年3月期 第2四半期決算説明会

2016年11月11日

1. 2017/3月期 第2四半期連結決算の概要

代表取締役専務取締役 伊東 信平

2. 2017/3月期 通期業績予想 および 今後の見通し

代表取締役社長 山木 一彦

2017/3月期 第2四半期 連結決算の概要

代表取締役専務取締役 伊東 信平

中期経営計画(2016/3月期-2018/3月期)の確認「目標値」



	2018/3月期 目標	(2015/3月期実績)
①売上高	945億円以上	(856億円)
②営業利益	75億円以上	(46億円)
③営業利益率	7.9%以上	(5.4%)
④当期純利益	51億円以上	(37億円)
⑤ROE	6.0%以上(※)	(5.3%)

※既に実施済みの自己株取得等により、ROE予想は8.0%以上を見込む

連結損益計算書



為替の影響や自己株式取得関連費用の計上、
減損損失の発生により、減収減益。

	2016/3月期 第2四半期	2017/3月期 第2四半期		
	実績 億円 %	実績 億円 %	前年差(億) 前年比(%)	為替影響(億)
売 上 高	430	420	▲ 10 97.6%	▲ 14
営 業 利 益	29 6.8%	32 7.7%	2 110.0%	▲ 0
経 常 利 益	29 6.9%	27 6.6%	▲ 2 92.3%	0
親会社株主に帰属する 四半期純利益	18 4.4%	12 3.1%	▲ 6 67.9%	1

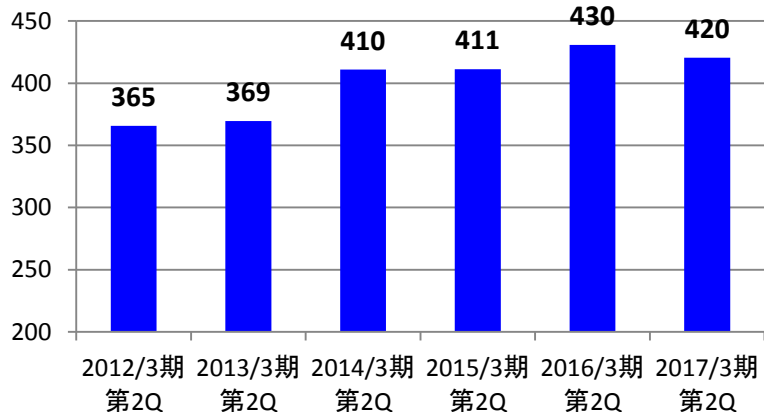
※自己株式取得関連費用 3 億円

※製造設備減損損失 5 億円

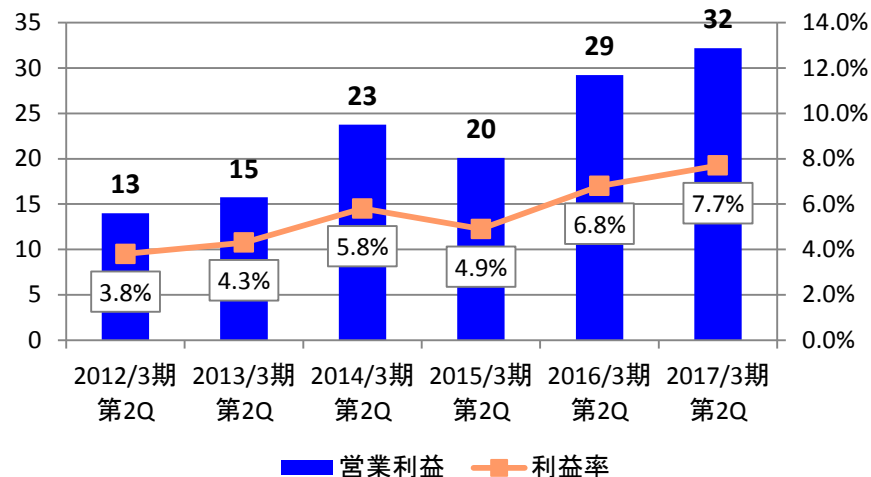
業績推移(2012/3期 第2四半期～2017/3期 第2四半期)



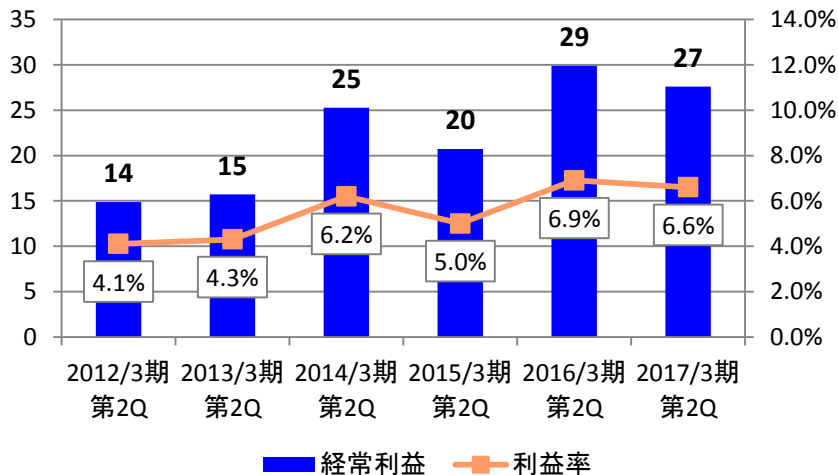
売上高



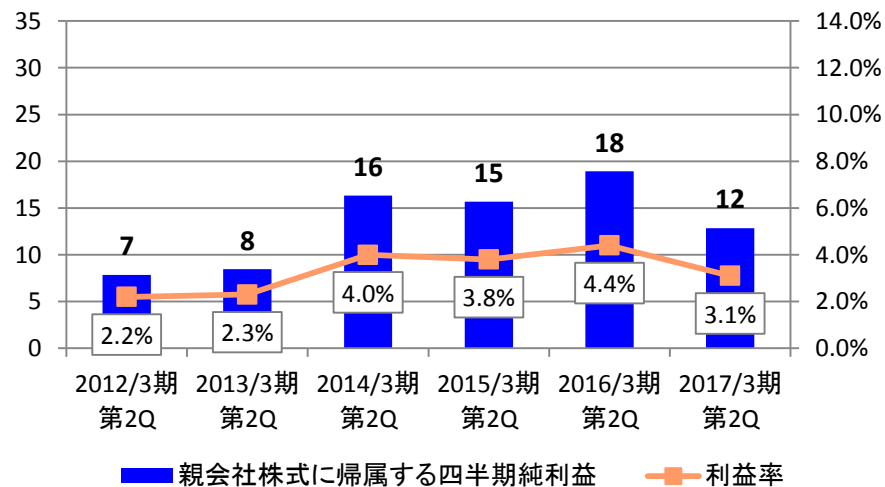
営業利益



経常利益



親会社株式に帰属する四半期純利益



セグメント別売上高／営業利益



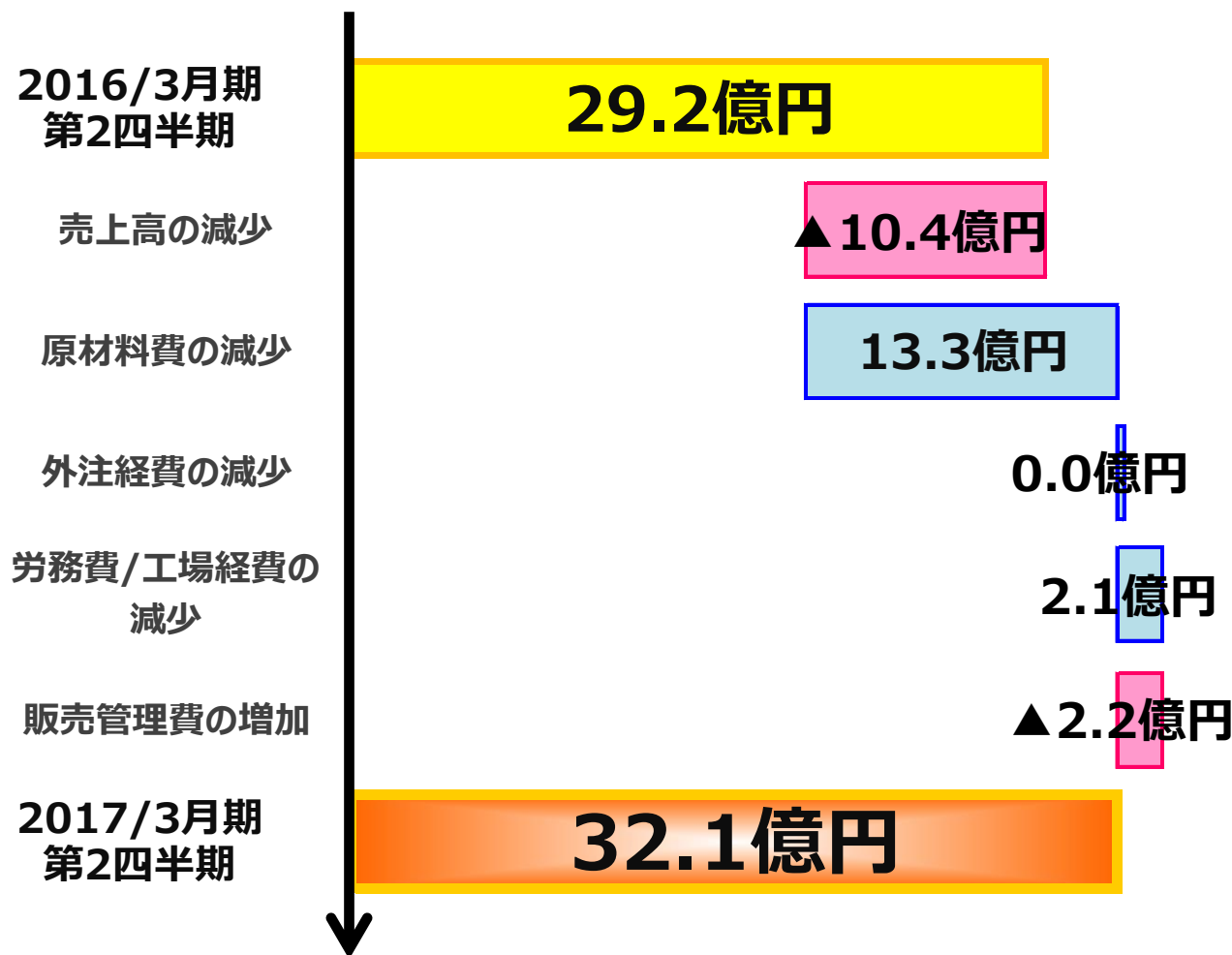
主に為替の影響により海外事業の売上高が減少するも、国内事業は、『収益性重視』の施策が反映され、増益。

		2016/3月期 第2四半期		2017/3月期 第2四半期		前年比	
		実績		実績			
		億円	%	億円	%	億円	%
国内食品事業	売上高	283		290		+ 7	102.5%
	営業利益	24	8.6%	32	11.2%	+ 8	132.9%
家庭用食品 業務用食品 加工食品用原料等	売上高	81		80		△ 0	99.8%
	売上高	103		106		+ 3	102.9%
	売上高	99		103		+ 4	104.2%
国内化成品その他事業	売上高	29		29		+ 0	103.0%
	営業利益	1	5.8%	2	10.0%	+ 1	178.7%
海外事業	売上高	124		105		△ 19	84.5%
	営業利益	5	4.3%	▲ 1	▲ 1.2%	△ 6	-
改良剤事業 食品事業	売上高	75		67		△ 8	89.1%
	売上高	49		38		△ 11	77.5%
セグメント 計	売上高	437		425		△ 11	97.4%
	営業利益	31	7.2%	34	8.1%	+ 2	108.7%
調整額 (セグメント間消去)	売上高	▲ 6		▲ 5		+ 0	
	営業利益	▲ 2		▲ 2		+ 0	
合計	売上高	430		420		△ 10	97.6%
	営業利益	29	6.8%	32	7.7%	+ 2	110.0%

営業利益の増減要因



販売管理費が増加したものの、原材料費率の低下などにより
売上総利益が伸長し、営業利益が増加。



《主な内訳》
人件費の増加 ▲0.7億円
広告宣伝費の増加 ▲1.1億円
販売促進費の減少 +0.4億円
物流費の減少 +0.6億円

連結貸借対照表



自己株取得により、自己資本比率が下がる。

	2016/3月期 期末	2017/3月期 第2四半期末	前年差 (為替影響)		2016/3月期 期末	2017/3月期 第2四半期末	前年差 (為替影響)
流動資産	574	537	▲37 (▲31)	負債	346	539	+192 (▲25)
現金及び預金	142	129	▲13 (▲8)	流動負債	285	284	▲1 (▲24)
受取手形及び売掛金 (電子記録債権含む)	223	205	▲17 (▲5)	固定負債	61	255	+194 (▲0)
たな卸資産	173	174	+0 (▲15)	うち、自己株取得による 長期借入金	—	(200)	(+200) —
その他	35	28	▲6 (▲2)	純資産	744	471	▲272 (▲24)
固定資産	516	474	▲42 (▲17)	株主資本	629	390	▲239 (+1)
有形固定資産	308	277	▲31 (▲16)	うち、自己株式	(▲42)	(▲171)	(▲129) —
無形固定資産	9	7	▲1 (▲0)	その他の包括利益 累計額	108	76	▲32 (▲24)
投資その他の資産	198	188	▲9 (▲0)	非支配株主持分	5	4	▲0 (▲0)
資産 合計	1,090	1,011	▲79 (▲49)	負債純資産 合計	1,090	1,011	▲79 (▲49)

※自己株取得による短期+長期借入金は220億円

連結キャッシュ・フロー計算書



現金及び現金同等物の期末残高は116億円。
期首から15億円減少。

	2016/3月期 第2四半期	2017/3月期 第2四半期
現金及び現金同等物の 期首残高	145	131
営業活動によるキャッシュ・フロー	21	24
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 40	▲ 14
財務活動によるキャッシュ・フロー	2	▲ 17
現金及び現金同等物に係る 換算差額	0	▲ 7
現金及び現金同等物の 期末残高	129	116

営業CF

税金等調整前純利益	21
減価償却費	17
減損損失	5
売上債権の減少	9
たな卸資産の増加	▲15
仕入債務の減少	▲5
法人税等の支払	▲11

投資CF

有形固定資産の取得	▲16
-----------	-----

財務CF

短期借入金の増加	15
長期借入金 of 増加	220
配当金の支払	▲7
自己株式の取得	▲244

2017/3月期 通期業績予想 および 今後の見通し

代表取締役社長 山木 一彦

■ 上期ポイント

減収増益※

国内

- 「国内食品事業」…「家庭用食品」については、ノンオイルドレッシングの不調により前年を下回ったものの、「業務用食品」「加工食品用原料等」においては堅調。全体では前年同期売上を上回る
また、採算性の低下に加え、不作による価格高騰にみまわれた、中国産わかめについては事業全体で品目整理や値上げ等で利益改善をおこない、併せて各部門の付加価値製品の提案等が定着し、営業利益においても伸長した
- 「国内化成品その他事業」…既存市場のみならず、新規市場への機能提案等が奏功し前年を上回った

海外

- 「海外事業」…当セグメントは為替影響を大きく受け、売上高が減少した
「改良剤」～生産拠点リケビタ・マレーシアでの新規増設設備が稼働スタート。ソリューションビジネスの体制強化。現地通貨ベースでは前年を上回る売上を確保したものの、為替のマイナス影響により前年同期に未達
- 「青島福生食品」～欧米輸出から中国国内への販売、高付加価値商品へのシフトを進めるも、為替影響も重なり売上げが減少、一部水産加工品の在庫評価損もあり、営業損失となった

■ 下期ポイント

増収増益予想※

国内

- 「国内食品事業」…中期計画で取り組んだ「利益体質への構造改革」が浸透しつつあり、更なる強化を図る
「家庭用食品」～主力ドレッシングシェア拡大を中心に、販促費の精査を行いつつ、積極的にプロモーションを投下していく
「業務用食品」～主力ドレッシング、海藻商品、調味料の拡売と共に、新規市場の開拓を継続
「加工食品用原料等」～より高付加価値提案型ビジネスの展開により、収益と市場拡大を図る
ヘルスケアでは伸長する医薬用マイクロカプセル等、健康ニーズに即した製品の拡売を図る
- 「国内化成品その他事業」…新規用途提案により、既存市場の底上げと新市場の開拓を推進

海外

- 「海外事業」…「改良剤」～海外アプリケーションセンター機能を強化し、差別化された改良剤の機能提案により、シェアの拡大を図っていく
…「青島福生食品」～ビジネスモデルの転換を図るため、中国国内販売の強化を継続

2017/3月期 通期損益計算書



単位：億円

	2017/3月期 予想			
	予想	%	前期差	前期比
売 上 高	885		+ 4	100.5%
国内食品事業	587		+ 14	102.6%
国内化成品その他事業	61		+ 1	103.3%
海外事業	247		▲14	94.6%
調整額(セグメント間消去)	▲ 10		+ 1	
営 業 利 益	65	7.3	+ 4	107.8%
国内食品事業	61		+ 6	112.9%
国内化成品その他事業	5		+ 1	137.7%
海外事業	3		▲1	63.2%
調整額(セグメント間消去)	▲ 5		▲2	
経 常 利 益	57	6.4	+ 3	106.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	34	3.8	▲7	82.3%

国内食品事業 [家庭用食品]



～付加価値商品の育成による収益体質への転換～

«17/3月期»

売上高 157億円 (前期+1億円)

〔上期実績：80億円、下期予想：77億円〕

上期：前年同期比 99.8%

■ ドレッシング

- ・オイル入りドレッシング「サラダデュオ®」の伸長があったものの、主力「リケンのノンオイル」の不振をカバーできなかった

■ 調味料

- ・化学調味料・食塩を無添加「素材力だし®」高付加価値訴求で引き続き伸長維持

■ 海藻商品

- ・中国産わかめ不作による原藻の高騰があったものの、値上げと国内商品へのシフトを行い伸長。
- ・「わかめスープ」昨年容量・価格改定をした商品の伸び悩み

下期取組み

■ ドレッシング

- ・「リケンのノンオイル セレクティ®」広告投下による拡販
- ・好調オイル入りドレッシングの更なる拡売



セレクティ®

オイル入り
サラダデュオ®

■ 調味料

- ・好調「素材力だし®」に加え本格「だしパック」を全国発売に拡大

素材力だし®
だしパック



■ 海藻商品

- ・「タニタ食堂®監修 おいしい減塩わかめスープ」による健康訴求
- ・「ふえるわかめちゃん®」国内品や各産地ブランド品等のエリアマーケティング



おいしい減塩わかめスープ
新商品



ふえるわかめちゃん®
国内産地ブランド品



国内食品事業 [業務用食品]



～社会的ニーズに応える付加価値商品の展開～

«17/3月期»

売上高 216億円 (前期+5億円)

〔上期実績：106億円、下期予想：109億円〕

上期：前年同期比 102.9%

■ 外食・給食向け等

- ・ドレッシングは学校給食向け付加価値商品及び新商品を中心に伸長
- ・調味料は「素材力だし®」や新商品の中華調味料等が実績貢献した
- ・中国産わかめ不作による原藻の高騰に伴い、7月以降産地変更や値上げ交渉を行った
- ・冷凍海藻商品は高付加価値商品として伸長継続

■ 加工食品メーカー向け・コンビニ向け等

- ・不採算の中国産わかめの事業モデル変更のため、値上げ交渉や国内産へのシフトを行った
- ・大手取引先への調味料・食品用改良剤を含めた提案が奏功し全体では売上、利益とも伸長

■ 外食・給食向け等 ・好調の新商品群に注力



サラダデュオ® ごまわさび
プレミアムスタイル青じそおろし



素材力だし®
シリーズ

下期取組み

- ・中国産わかめの減産分のカバー
⇒国内産シフトや好調な冷凍海藻の更なる拡大
- ・時代のニーズに応えた健康訴求商品の拡充
⇒老健施設向け商品、アレルギー対応商品強化
- ・ユーザー要望に応えた、戦略的PB商品対応

■ 加工食品メーカー向け・コンビニ向け等

- ・引き続き、わかめ事業等での不採算品の整理を行い、全体での利益体質化を図る
- ・大手取引先への“ソリューション型営業”の強化

国内食品事業 [加工食品用原料等]



～重点品目拡売と新規提案営業による収益強化～

«17/3月期»

売上高 213億円 (前期+7億円)

〔上期実績：103億円、下期予想：109億円〕

上期：前年同期比 104.2%



■ 加工食品用原料

・製菓・製パン用加工油脂、豆腐用凝固剤、天然色素等の重点品目が伸長し売上貢献

・利益面でも食品向けビタミン、製菓・製パン用加工油脂が貢献しプラスとなった

・生産部門との連携により不採算製品を整理

■ ヘルスケア

・医薬用マイクロカプセル引き続き好調
売上げ及び利益に貢献

・健康食品向け機能性表示食品 クロセチン*伸長
(*…クナシやサフランを由来とする天然成分
：目の疲れから生じるピント調節機能の低下を
緩和し、目の調子を整える)

下期取組み

■ 加工食品用原料

・重点品目の主要顧客への販売取り組み継続強化

・千葉工場の新液体ラインの本格稼働と
連動した液体製剤製品の拡売

新液体工場
2015年7月竣工

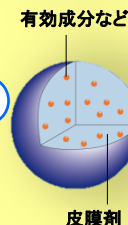


・国内外の生産工場及びアプリケーションセンターと
連携を図り、新規市場への提案を強化

■ ヘルスケア

・医薬用マイクロカプセルの更なる生産体制整備

医薬用マイクロカプセル



・機能性表示食品の深堀と製品拡張

⇒β-クリプトキサンチン*

(*…パプリカやみかん等を由来とする天然成分

：丈夫な骨を維持したい方へ)

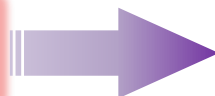
～市場環境の変化をビジネスチャネルに転換～

«17/3月期»

売上高 61億円 (前年+1億円)

〔上期実績：29億円、下期予想：31億円〕

上期：前年同期比 103.0%



■ 化成品その他

- ・ 全体では増収増益
- ・ 農業用フィルム、プラスチック建築資材等、既存ユーザーは伸び悩み
- ・ 新規業界への提案、参入により売上伸長を確保
- ・ 利益面ではローコストプロダクション及び一部物流見直しの効果もあり増益となる

下期取組み

- 化成品その他
 - ・ 既存市場の営業と開発の連携による新製品・新用途提案
 - ⇒ 既存市場の回復とダイナミックな新規市場開拓
- 競争力のある海外工場製品の国内導入および、グリーン・ケミカル(植物原料由来)の展開
- 更なるローコストプロダクションおよび、製品リニューアル等による利益体質化

～成長エンジン事業として、アプリケーションセンターを
核とした改良剤提案型ビジネスの拡大～

«17/3月期»

売上高 247億円 (前期▲14億円)

〔上期実績：105億円、下期予想：141億円〕

上期：前年同期比 84.5%

■改良剤

- ・売上げは現地通貨ベースで前年を上回ったものの、為替の影響が大きく円換算では前年を下回った
- ・利益面でもマレーシア工場増設ラインの減価償却の負担増やパーム油等の主要原料高騰、更に為替の影響を受けた

■青島福生食品

- ・事業モデルの構造改革の途上での売上減少に加え、為替影響もあり、昨年同期を下回る
- ・一部水産加工品滞留在庫により評価損が発生

下期取組み

■改良剤

- ・リケビタ・マレーシアの設備増強による生産量拡大(2016年3月～稼働)に対応した販売戦略の強化



- ・海外アプリケーションセンターを活用、機能提案による更なる付加価値製品の拡販および上市
- ・アジア市場は付加価値型製品の拡販、欧米市場は量の確保を推進していく

■青島福生食品：事業モデル構造改革の早期推進

- ・従来の欧米輸出に加え中国国内向け販売にシフト
- ・在庫回転と利益を重視した製品への転換と、拡売推進

	2017/3月期 予想			前期比	
	売上高	営業利益		売上高	営業利益
全体 計	885	65 7.3%		+ 4	+ 4

国内：収益基盤の確立

	2017/3月期 予想			前期比	
	売上高	営業利益		売上高	営業利益
国内食品事業 計	587	61 10.4%		+ 14	+ 6
家庭用食品	157			+ 1	
業務用食品	216			+ 5	
加工食品用原料等	213			+ 7	
国内化成品その他事業 計	61	5 9.5%		+ 1	+ 1

海外：構造基盤の強化

	2017/3月期 予想			前期比	
	売上高	営業利益		売上高	営業利益
海外事業 計	247	3 1.3%		▲ 14	▲ 1
改良剤事業	147			▲ 6	
食品事業	100			▲ 8	

通期ポイント

- 「国内事業」のうち、競争激化で伸び悩みの「家庭用食品」以外については堅調な伸びを見込む。「海外事業」については為替影響が不透明だが、「国内」で更なる利益体質強化を図り、全社通期では増収増益の見込み
- 中期経営計画の方針に基づき、「国内事業」については「収益基盤の確立」を目指し、マーケティングコストの効率的な運用を行い、“用途提案等含めた高付加価値型商品”に注力する
- 「海外事業(改良剤)」については、“成長エンジン”の位置付けで、【海外生産拠点×販売会社×アプリケーションセンター(機能開発)】を三位一体とした、高機能改良剤提案のビジネスモデルを推進

■ 以上を踏まえ、2017年3月期は通期予想の達成を見込む また今中期経営計画の目標の一つである、「2018年3月期のROE 6%以上」について、中期経営計画2年目の本年3月期は5%台を見込んでいる

各中期経営計画ごとの通期業績の推移



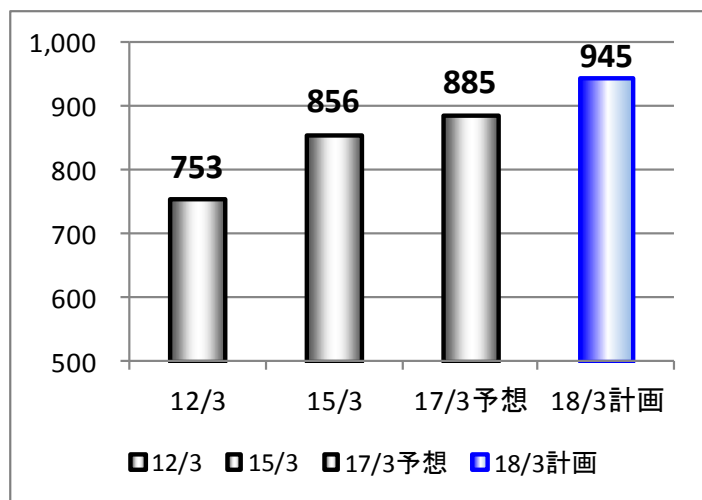
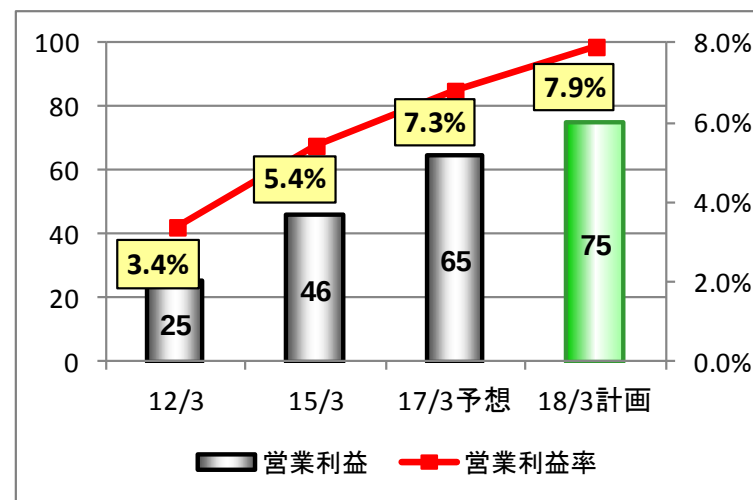
単位：億円

前々 中期計画

前 中期計画

今 中期経営計画

	2012/3月期		2015/3月期		2017/3月期		2018/3月期			
	実績	%	実績	%	予想	%	計画	%	15/3期差	15/3期比
売上高	753		856		885		945		+ 88	110.4%
営業利益	25	3.4	46	5.4	65	7.3	75	7.9	+ 28	161.3%
経常利益	28	3.8	46	5.5	57	6.4	75	7.9	+ 28	160.1%
親会社株主に帰属する当期純利益	14	1.9	37	4.4	34	3.8	51	5.4	+ 13	134.4%



各中期経営計画ごとのセグメント別売上高・営業利益の推移



単位：億円

		前々 中期計画		前 中期計画		今 中期経営計画			
		2012/3月期		2015/3月期		2017/3月期		2018/3月期	
		実績	%	実績	%	予想	%	計画	%
国内食品事業	売上高	509		562		587		608	
	営業利益	20	4.0	39	7.1	61	10.4	67	11.1
	家庭用食品	売上高	133	161		157		173	
	業務用食品	売上高	187	202		216		225	
国内化成品その他事業	加工食品用原料他	売上高	188	198		213		210	
	売上高	58		61		61		68	
	営業利益	3	5.9	3	5.9	5	9.5	4	6.6
	営業利益	3	5.9	3	5.9	5	9.5	4	6.6
海外事業	売上高	193		243		247		283	
	営業利益	4	2.2	7	3.0	3	1.3	9	3.2
	調整額	▲ 7		▲ 11		▲ 10		▲ 14	
	(セグメント間消去)	▲ 2		▲ 4		▲ 5		▲ 6	
合 計	売上高	753		856		885		945	
	営業利益	25	3.4	46	5.4	65	7.3	75	7.9
								15/3期差	15/3期比
								+ 45	105.4%
								+ 27	170.1%
								+ 11	107.0%
								+ 22	111.1%
								+ 11	106.0%
								+ 6	110.2%
								+ 0	123.6%
								+ 39	116.2%
								+ 1	122.8%
								▲ 2	
								▲ 1	
								+ 88	110.4%
								+ 28	161.3%

この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれております。

それら将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに、当社が計画・予測したものであります。

実際の業績などは、今後の様々な条件・要素によりこの計画などとは異なる場合があります、この資料はその実現を確約したり、保証するものではありません。



お問い合わせ先
経営企画部 広報・IR室
池田・相原
TEL : 03-5275-5835